



第5回ユネスコスクール全国大会

持続可能な開発のための 教育(ESD)研究大会

「ESDのさらなる発展を目指して－
2014年ユネスコスクール世界大会を見据え」

抄 録 集

開催日：平成25年12月1日(日)

会 場：多摩永山情報教育センター

主 催：文部科学省／日本ユネスコ国内委員会

協力企業一覧(50音順)

カシオ計算機株式会社
全国農業協同組合連合会
P&Gジャパン株式会社
株式会社ユニクロ
ユネスコキッズ supported by NTT docomo

展示団体一覧(50音順)

ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会
岡山市(ESD世界会議推進局・岡山市教育委員会事務局指導課)
(特活)開発教育協会／DEAR
特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)
JICA 青年海外協力隊事務局
ジャパンアートマイル
日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)
特定非営利活動法人日本持続発展教育推進フォーラム
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
文部科学省国際統括官付(日本ユネスコ国内委員会)
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

第5回ユネスコスクール全国大会 持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会 抄録集

発行日：平成25年12月1日
発行：NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム
<http://www.jp-esd.org/>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-40
電話 03-3295-7051
FAX 03-3295-7054
E-mail:info@jp-esd.org

第5回ユネスコスクール全国大会 持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会

抄 録 集

平成25年12月1日(日)

多摩永山情報教育センター

主催：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会

共催：NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム

東京都多摩市

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

後援：外務省 環境省 東京都教育委員会 東京都多摩市教育委員会

全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会

全国国公立幼稚園長会 一般社団法人国立大学協会 日本教育大学協会

全国国立大学附属学校連盟 日本私立大学協会 日本私立大学連盟

日本私立中学高等学校連合会 日本私立小学校連合会

全日本私立幼稚園連合会 日本PTA全国協議会

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPU nivNet)

東京都多摩市公立小学校長会 東京都多摩市公立中学校長会

株式会社教育新聞社

目 次

◆開催によせて

文部科学大臣政務官 上野 通子	4
日本ユネスコ国内委員会会長 安西 祐一郎	5
多摩市長 阿部 裕行	6

◆大会日程	7
-------------	---

◆会場案内	8
-------------	---

◆テーマ別交流研修会

第1分科会 「ESDの浸透と校内連携」	11
第2分科会① 「教科とのリンク(小学校)」	12
第2分科会② 「教科とのリンク(中・高校)」	13
第3分科会① 「学校間交流(国内)」	14
第3分科会② 「学校間交流(海外)」	15
第4分科会 「地域素材の活用」	16
第5分科会 「教材開発」	17
第6分科会 「地域連携」	18
第7分科会 「国際理解教育」	19
第8分科会 「環境教育」	20
第9分科会 「ESDの成果」	21

◆基調提案	22
-------------	----

「学校現場では、ESDの成果をどうとらえているか」

◆パネルディスカッション	23
--------------------	----

「ESDのさらなる発展を目指して - 取り組みの成果をどうとらえるか」

◆ランチョンセッション（協力企業団体による社会貢献活動の紹介）	27
---------------------------------------	----

◆ユネスコスクール一覧	30
-------------------	----

◆第4回ESD大賞 受賞校一覧	36
-----------------------	----

◆協力企業・団体一覧

第5回 ユネスコスクール全国大会 持続可能な開発のための教育 (ESD) 研究大会開催に寄せて



文部科学大臣政務官 上野 通子

多摩市において、第5回ユネスコスクール全国大会が開催できますことを嬉しく思います。また、開催にあたり御尽力いただいた関係の皆様方に深く感謝申し上げます。

我が国の提唱で2005年に始まりました「国連持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」は、来年、2014年に最終年を迎え、11月には愛知県名古屋市、岡山市において「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されます。

愛知県名古屋市の「閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合」では、ユネスコ加盟国の閣僚、政府関係者など1,000名以上の参加が見込まれます。また、岡山市のステークホルダー会合には国内外の高校生、青年など計1,000名以上のステークホルダーが参加する予定です。

先般、第37回ユネスコ総会に出席し、日本政府代表の演説において、世界会議への多くの加盟国の閣僚等の参加を呼びかけ、また、「ESDに関するユネスコ世界会議」に関する閣僚級朝食会をユネスコと共催し、我が国におけるESDの取組を紹介するなど、世界会議の意義や重要性について説明し、各国からの積極的な参加を呼びかけました。

本世界会議は、これまでの取組を振り返り、2015年以降のESDの展望を示す大変重要なものです。文部科学省といたしましても、関係省庁と連携しながら、ユネスコ及び開催地の自治体と協力し、是非とも成功させる決意であります。

これまでも、ESDの推進拠点であるユネスコスクールにおかれては、様々な分野においてESD活動を行い、また、国内外のユネスコスクール同士の交流に努められているところですが、日本全体でESDを推進していくためには、ユネスコスクール関係の皆様をはじめ、行政、市民、NPO、企業、地域社会等の協働は不可欠と考えています。

現在、ユネスコスクールは647校まで増加しましたが、更に全都道府県にユネスコスクールが設置されるよう、文部科学省といたしましても最大限努力してまいります。ユネスコスクール関係及び教育委員会の皆様におかれましても、今後とも、その活動が充実したものとなりますよう、引き続き、御尽力をお願いいたします。

本大会は、様々なステークホルダーの皆様に御参加いただき「ESDのさらなる発展を目指して—2014年ユネスコスクール世界大会を見据え」というテーマの下、開催されます。今回の開催地である多摩市は、市内全ての公立小中学校がユネスコスクールであり、教育委員会と学校、そして地域との具体的な連携について御紹介いただくとともに、国内におけるESDの優れた実践事例や今までの成果や課題について議論が行われます。

本大会を契機とし、我が国におけるESDの取組の更なる質の向上、来年の世界会議、そして2015年以降に向けてESDの一層の推進が図られることを期待いたします。

最後に、本大会開催に当たり、関係の皆様のご多大なる御支援、御協力に改めて感謝申し上げ、併せて本大会が参加者の皆様にとって実り多きものとなりますよう盛會を祈念いたします。



日本ユネスコ国内委員会会長 安西 祐一郎

「第5回ユネスコスクール全国大会」の開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。

さて、我が国が提案し、2005年から始まりました「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」は、来年、2014年にはいよいよ最終年を迎えます。そして、11月にはこの10年の取組みを総括し、今後の展望を考える「持続可能な開発のための教育（E S D）に関するユネスコ世界会議」が、愛知県名古屋市及び岡山市で開催される予定です。岡山市において開催される主要なステークホルダーの会議の一つが、「ユネスコスクール世界大会」です。各国のユネスコスクールにおいて行われてきたE S Dの実践を共有し、共通の未来を創るために協働して取り組むことを目指すものです。

このため、今回のユネスコスクール全国大会は、来年の世界会議を見据え、国内におけるE S Dの取組を振り返るとともに、2015年以降、いかにしてE S Dに取り組んでいくのかについて具体的に考えていくことが必要です。

日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをE S Dの推進拠点とし、現在、その数は647校となっています。また、「ユネスコスクールガイドライン」を策定し、質の確保にも努めています。

一方、本年6月に策定された「第2期教育振興基本計画」においてE S Dは我が国の教育の重要な理念の一つとして位置づけられ、学習指導要領においても「持続可能な社会の構築」という観点が盛り込まれております。今後は、ユネスコスクールに限らず、全ての学校において、E S Dを推進することが大切です。

社会的な課題について総合的に考え、身近なところから実践することはE S Dの根幹です。このようなE S D活動を通して、子どもたちが体系的な思考力や行動力、他者に対する尊重などを身につけることが期待されます。そして、これらは、現在政府の推進するグローバル人材育成に通じるものと考えます。また、世界的にも、本年9月韓国で開催されたユネスコスクール60周年記念国際フォーラムや11月に開催された第37回ユネスコ総会においても、E S Dは21世紀の社会を創り、生きるために必要な資質を養うものであり、その推進のためにユネスコスクールの果たす役割が重要という指摘が多く、国からされております。

日本ユネスコ国内委員会としては、ユネスコスクールが、E S Dの推進拠点としての役割を十分に果たす上では、ユネスコスクールのネットワークを活用し、国内外の交流に努めることが必要と考えております。また、ユネスコスクール以外の学校や、さらには教育現場のみならず、地域社会、民間企業、N P O等、幅広いステークホルダーを巻き込み、社会全体で持続可能な社会の担い手づくりに取り組んでいくことが必要です。本大会を契機として、来年の世界会議に向けて、これらのステークホルダーが一体となってE S Dを推進していく体制づくりが重要だと考えます。

また、世界会議に向け、E S Dの取組がより深いものになり、一般の人々に対してもE S Dの理念が少しでも普及するために、最大限努力しているところです。今後とも皆様の御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本大会開催に御尽力された関係の皆様に深く敬意を表しますとともに、本大会が御参加の皆様方にとりまして有意義なものとなりますよう祈念し、御挨拶とさせていただきます。



多摩市長 阿部 裕行

第5回ユネスコスクール全国大会の開催、心よりお祝いを申し上げます。

本日はようこそ多摩市にお越しくださいました。本年は、ユネスコスクール結成60周年にあたります。その記念すべき年に、多摩市を舞台として本大会が開催されることは、本市にとって、持続可能な社会の構築に向けた未来への大きな一歩ととらえています。

多摩市は、昭和46年、多摩ニュータウンのある「太陽とみどりに映えるまち」として誕生し、本年は「ハローキティにあえる街」として市制施行42年を迎えたところです。現在、『みんなが笑顔いのちにぎわうまち 多摩』を将来都市像として定め、全ての人々や動植物などあらゆる生命が、それぞれの輝きを放ち、互いに関わり合いながら共存する活力にあふれたまちづくりを進めています。本日はぜひ、四季折々に美しい多摩市のなかでも紅葉の一面に広がる多摩中央公園やイルミネーションで飾られたパルテノン大通りをお楽しみいただければと思います。

E S D（持続可能な開発のための教育）が平成21年度より多摩市教育委員会の重要施策として位置付けられて以来、E S Dの推進拠点であるユネスコスクールに、市内の全ての公立小・中学校が加盟しています。今、「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズに、多摩市が子育てしやすく、未来を担う人材を育てていく都市であることを宣言した未来への挑戦プログラムとして、地域、そして産学官の連携でE S Dを推進しています。

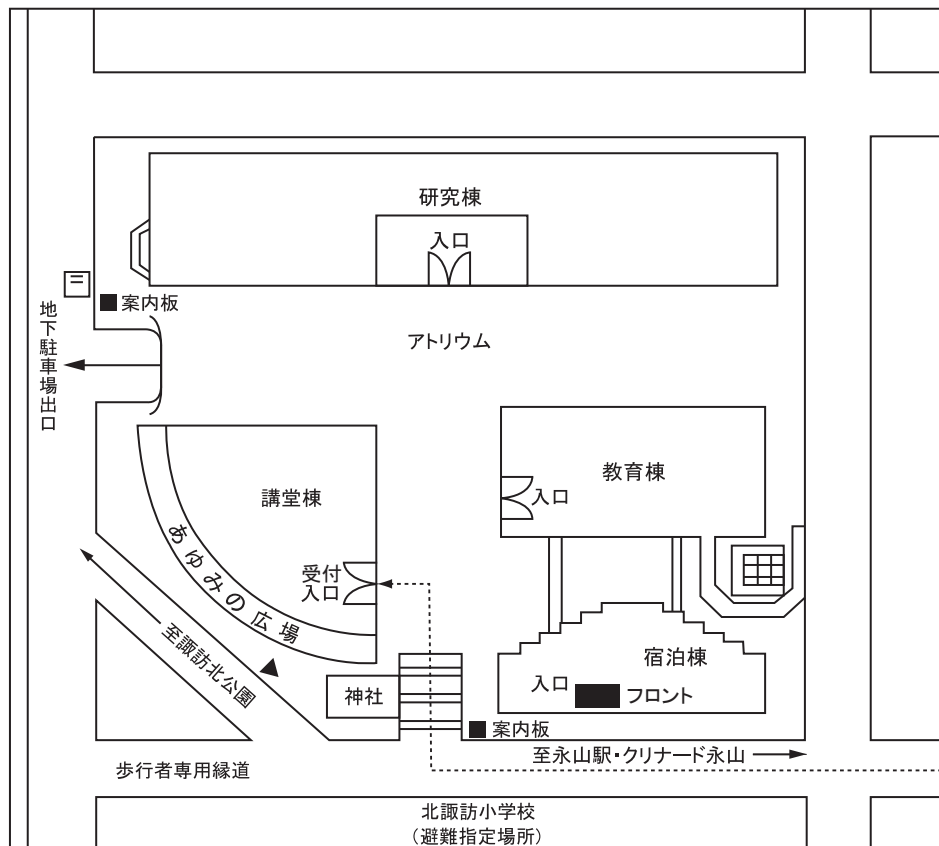
昨日、本大会のプレイベントとして実施いたしました、「E S D多摩地区コンソーシアム研究発表会」では、多摩市の子どもたちによる「持続可能な社会を構築するための子ども宣言」の発表をはじめ、多摩地区の市民活動団体をはじめ、企業、大学、行政機関がユネスコスクールと連携して進めるE S Dの活動の紹介を行いました。また、ユネスコスクール全国大会の前日であることから、全国から多摩市にお越しくださる皆様をお迎えするイベントとして、前夜祭を企画いたしました。多摩市に立地するサンリオピューロランドを自由見学いただくとともに、アーティスト・東京芸術大学教授 日比野 克彦氏による記念講演会を実施させていただきました。今後は、多摩地区だけでなく、E S Dに積極的に取り組んでいる国内外の皆様と、E S D活動の輪を広げていきたいと考えています。

第5回を迎えた本会は、来年の「国連E S Dの10年」の最終年を控え、「E S Dのさらなる発展を目指して—2014年ユネスコスクール世界大会を見据え」をテーマに開催されます。これまでのE S Dの実践研究の成果を検証し、2014年以降も日本のE S Dの普及発展に寄与することをねらいとすることから、今回、全国からご参会くださる皆様と、E S Dの理念はもとより、今後のE S D推進の方向性をしっかりと共有し、来年の世界大会につながる充実した会になることを期待します。皆様の今後のますますのご活躍を祈念し、挨拶いたします。

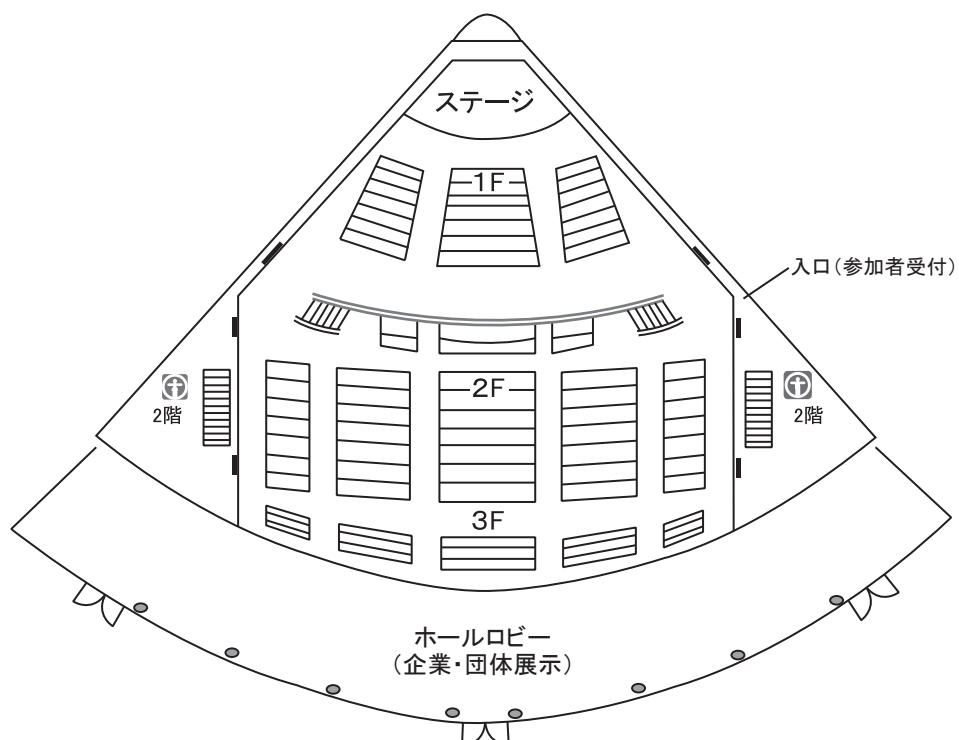
大会日程

時間	プログラム	会場
09:00～09:30	受付	講堂
09:30～10:00	開会式 挨拶 上野 通子（文部科学大臣政務官） 安西 祐一郎（日本ユネスコ国内委員会 会長） 阿部 裕行（多摩市市長）	講堂
10:00～11:50	テーマ別交流研修会 ①「ESDの浸透と校内連携」 ②-1「教科とのリンク(小学校)」 ②-2「教科とのリンク(中・高校)」 ③-1「学校間交流(国内)」 ③-2「学校間交流(海外)」 ④「地域素材の活用」 ⑤「教材開発」 ⑥「地域連携」 ⑦「国際理解教育」 ⑧「環境教育」 ⑨「ESDの成果」	教育棟 2～5F
12:00～13:00	ランチセッション （協力企業・団体による社会貢献活動の紹介） ※昼食をご用意いたします。 同時開催：ESD関連団体による展示	講堂 教育棟 2～4F
13:10～14:10	交流研修会全体報告会 司会 手島 利夫（江東区立八名川小学校 校長）	講堂
14:10～14:40	基調提案 「学校現場では、ESDの成果をどうとらえているか」 石井 正広（多摩市教育委員会 統括指導主事） 棚橋 乾（多摩市立多摩第一小学校 校長） 富田 広（多摩市立東愛宕中学校 校長） 森 良（認定NPO法人ESD-J 理事、NPO法人ECOM 代表）	講堂
14:50～16:00	パネルディスカッション 「ESDのさらなる発展を目指して -取り組みの成果をどうとらえるか」 司会 及川 幸彦（気仙沼市教育委員会 副参事兼指導主事） 発表者 見上 一幸（宮城教育大学 学長） 北 俊夫（国士舘大学 教授） 田村 学 （文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官）	講堂
16:00～16:30	第4回ESD大賞表彰式・閉会式	講堂

会場案内

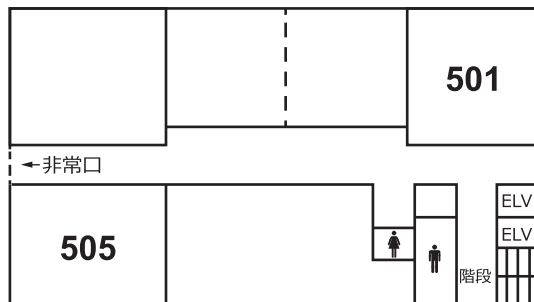


講堂棟

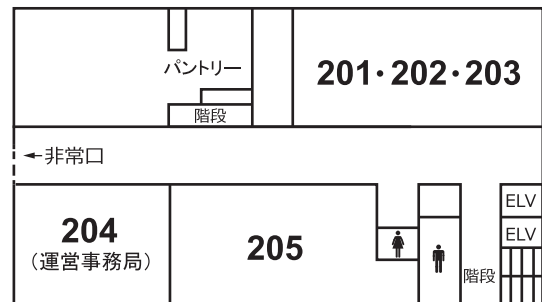


教 育 棟

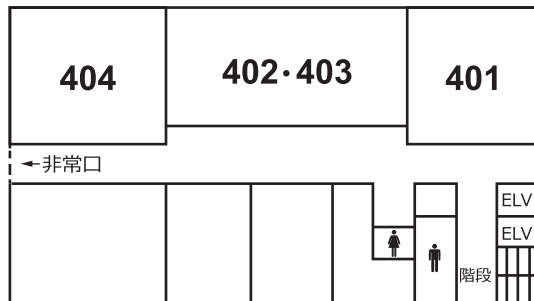
5F



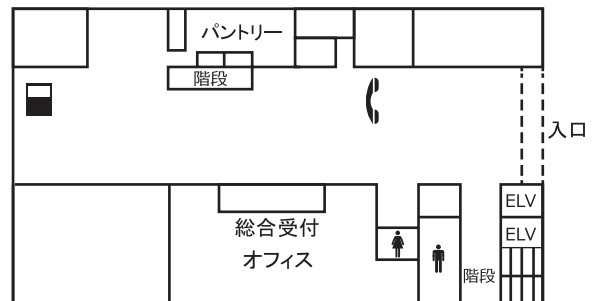
2F



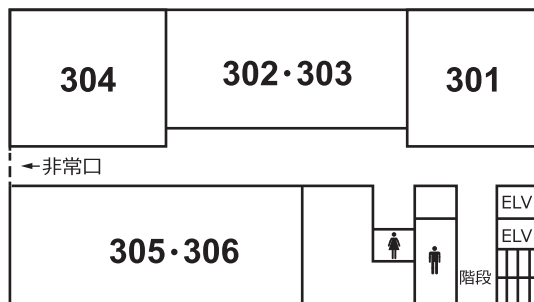
4F



1F



3F



テーマ別交流研修会会場

- 第1分科会 201・202・203
- 第2分科会① 205
- 第2分科会② 305・306
- 第3分科会① 301
- 第3分科会② 302・303
- 第4分科会 304
- 第5分科会 401
- 第6分科会 404
- 第7分科会 402・403
- 第8分科会 505
- 第9分科会 501

ランチョンセッション会場

- ①講堂
- ②教育棟 201・202・203
- ③教育棟 302・303
- ④教育棟 305・306
- ⑤教育棟 402・403

テーマ別交流研修会(教育棟 2～5F) 10:00～11:50

分科会 (教室)	テ ー マ	事例発表者
第1分科会 (201・202・203)	「ESDの浸透と校内連携」	宮城県気仙沼市立小原木中学校 教諭 齋藤 潤
第2分科会① (205)	「教科とのリンク(小学校)」	宮城県気仙沼市立新城小学校 教諭 小野 美由起
第2分科会② (305・306)	「教科とのリンク(中・高校)」	奈良県立法隆寺国際高等学校 教諭 松本 真紀
第3分科会① (301)	「学校間交流(国内)」	宮城県気仙沼市立馬籠小学校 教諭 伊藤 秀樹
第3分科会② (302・303)	「学校間交流(海外)」	大阪教育大学附属高等学校池田校舎 教諭 田中 誠一
第4分科会 (304)	「地域素材の活用」	稲城市立稲城第二小学校 校長 松坂 章二 主幹教諭 鈴木 千津 主幹教諭 高垣 大介 主任教諭 大橋 佑基
第5分科会 (401)	「教材開発」	多摩市立青陵中学校 校長 笹森 肇 教諭 佐々木 雅一 多摩市立南鶴牧小学校 主幹教諭 隅田 克思 野村総合研究所 CSR推進室長 横山 喜一郎 東京ガス多摩支店 副支店長 中村 健一
第6分科会 (404)	「地域連携」	多摩市立豊ヶ丘小学校 校長 小林 佳世 多摩市立東愛宕小学校 校長 松田 孝 恵泉女学園大学 人間社会学部 社会園芸学科 教授 小林 幹夫 多摩市役所環境部 公園緑地課 課長 芳野 俊彦 多摩市グリーンボランティア連絡会 代表 川添 修
第7分科会 (402・403)	「国際理解教育」	東京都江東区立深川第一中学校 研究主任 河村 光之
第8分科会 (505)	「環境教育」	岡山県岡山市立小串小学校 教諭 早川 泰文
第9分科会 (501)	「E S Dの成果」	東京都江東区立八名川小学校 教諭 黄地 健男

第1分科会 ESDの浸透と校内連携

海拔表示プロジェクトへの取組

齋藤 潤（宮城県気仙沼市立小原木中学校 教諭）

本プロジェクトは、地域住民と協働で、学区内の電柱にその地点のおよその海拔を示したオリジナルの表示板を取り付け、生徒のみならず地域の防災対応能力を高めようというプロジェクトである。

このプロジェクトのねらいは次の3点である。1つ目は、表示板を取り付けることで、日常的に海拔を意識した生活環境を作り出し、海拔に関する感覚を育成する。そのことで生徒および地域住民の防災対応能力を向上させることである。また、表示する海拔によって表示板の色を変えており、この色について事前に繰り返し説明しておくことで、緊急時の幼児、低学年児童の避難行動のためのわかりやすい目当てにすることである。2つ目は、地域住民と協働してプロジェクトに取り組むことで、生徒の地域の一員としての意識やふるさと復興の担い手であることの自覚を高めることである。3つ目は、メンテナンスなど定期的にこのプロジェクトに関わることで、東日本大震災の記憶を忘れないようにし、災害の教訓を風化させることなく後世に伝承することである。

生徒を対象に昨年行ったプロジェクトに関する意識調査結果をみると、プロジェクトに対してほぼ100%の生徒が肯定的に捉えており、活動に対する満足度も高いことがわかった。また、「地域」というキーワードをあげて回答していた生徒が多いことから、プロジェクトが地域との連携強化という点で成果があったことがうかがえた。さらに、地域住民から注目されるとともに、新聞で報道されたり、校外で行った活動報告の機会に高い評価を受けたことが、生徒の自己肯定感や自己効力感を高めることにつながり、心のケアの観点からも有効であったと考えられる。今後も充実、継続させるための方策を検討したい。



取付けた表示板

第2分科会① 教科とのリンク（小学校）

ESDの視点からの防災教育における教科との連携

小野 美由起（宮城県気仙沼市立新城小学校 教諭）

昨年度から、自分が所属する気仙沼市教育研究員では、「東日本大震災を踏まえた防災教育の改善」という研究主題で、研究を行ってきた。防災教育をESDの観点で整理し、防災教育を教育課程に体系的・系統的に位置づけるための一助となるよう、横軸に小学校6年間から中学校までの発達段階、縦軸に教科・領域等の活動場面に配置した「防災学習マトリックス」を考案した。このマトリックスを基に、学校がそれぞれの実態に合わせて、学校教育全体で防災学習を推進することができるよう、一単位時間（ショートも含む）ごとに、「防災学習シート」（図1参照）を作成し、それらの効果について授業実践を通して検証した。防災教育に関連する学習活動を整理し、ESDの視点で授業を組み立て、効果的な防災教育の在り方を明らかにした結果、既存の各教科でも防災学習を行うことができ、学級活動、総合的な学習の時間、課外活動などと組み合わせ、リンクを図ることによって、より充実した防災学習が展開できることが分かった。

今年度の気仙沼市教育研究員は、学級担任の他、防災主幹、養護教諭が所属しており、各校での実践的な検証をもとに、それぞれの立場から「防災学習マトリックス」の改善・拡充を図るとともにそれに配置すべき新たな防災学習シートの開発や資料等の添付など、その充実に努めている。また、防災学習シートを①「防災学習必須シート」、②「防災学習推奨シート」、③「防災学習充実シート」の3段階の優先順位にわけ、各学校が防災学習を学校の教育課程の実情に合わせて選択し、取り入れやすいように提示する。さらには、「防災学習必須シート」は、児童生徒用ワークシートや写真・読み物資料なども掲載し、授業でより活用しやすいように充実させていく。新城小学校では、教科を軸に他の領域とのリンクを図った防災学習を考案し、実践を行っている（図2参照）。防災学習を教科や特別活動、総合的な学習の時間と関連させ、ESDの視点で授業を組み立てることで、ストーリー性のある防災教育を展開できると考える。

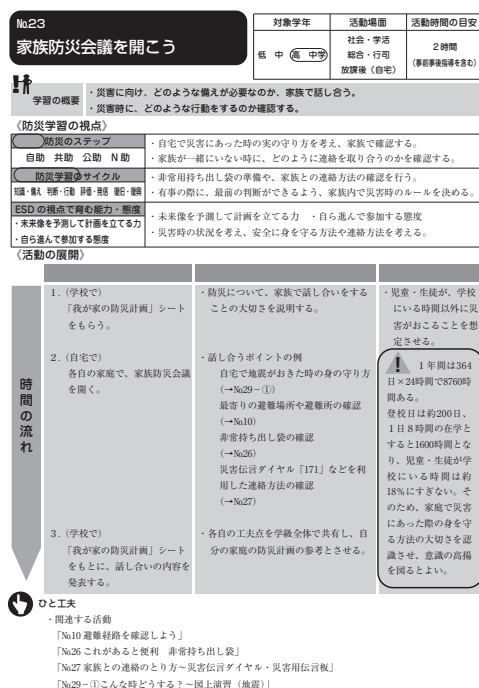


図1: 防災学習シートNo.23「家族防災会議を開こう」

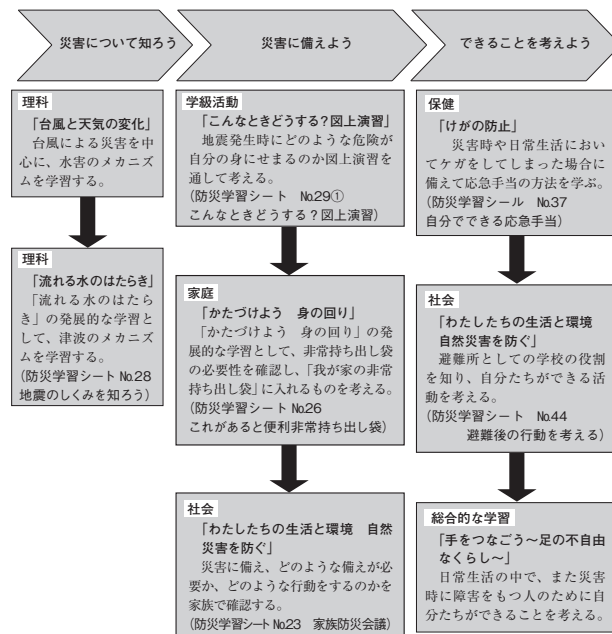


図2: 新城小学校5年生における防災学習の流れ

第2分科会② 教科とのリンク（中・高校）

英語科目におけるESD実践—コットンを題材に考えるわたしたちの未来

松本 真紀（奈良県立法隆寺国際高等学校 教諭）

イメージン英語は、国際英語科3年生3単位の本校学校設定科目である。本校ではESD実践の科目として、「環境問題」や「社会問題」をテーマに授業を展開している。2年生で身につけた情報収集の力を活かし、多くの調べ学習をする。また、それについての自らの意見をはっきりと持ち、英語で発信する力や方法を身につける。

英語の観点から	ESDの観点から
・英語で情報を得ることができる ・英語で自分の意見を表現することができる ・人前で英語で発表ができる （プレゼンテーション・スピーチ） ・1つのプロジェクト（発表）を仕上げることで達成感をもつ	・環境問題・社会問題への理解を深める ・問題とのつながりを意識する ・私たちに何ができるかを考え、実践する ・何が大切かを見極め、判断する力を身につける

本年度は「コットン」を題材に授業を展開している。私たちの生活に必要な不可欠なコットンにまつわる環境問題や社会問題について、グループで調べ、発表した。調べる内容については、生徒が興味関心を持った分野に任せている。

また、身近なコットンであるはずが、植物の綿とつながらない生徒も多かったため、実際に綿花栽培も行った。インドの児童労働について学んだ生徒たちは、土を耕す・コットンボールを収穫するなど、少しではあるが綿花栽培を体験することができた。

調べ学習や発表など、活動を多く取り入れることで、自分で情報を得る力や方法を身につける。問題解決について発表する機会が多くあることで、自分の意見を持ち、それを発信する力や勇気・自信をつける。身近な問題について学ぶことで、さまざまなものと自分とのつながりを意識するようになり、生徒たちが、卒業後も持続可能な未来を意識した生活をすることを期待しながら授業を続けている。



第3分科会① 学校間交流（国内）

人・自然・地域に学ぶ ～学校間交流を活用した取組から～

伊藤 秀樹（宮城県気仙沼市立馬籠小学校 教諭）

馬籠小学校では、地域の未来を担う人材の育成と児童のコミュニケーション能力の向上の観点からESDの目標を以下のように設定し学習している。①地域の人・もの・こと・社会・自然などに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度を養う。②人・もの・こと・社会・自然などのつながりについて理解し、多面的、総合的に考えることができるようにする。③自分の気持ちや考えを積極的に伝えることができるようにする。これらの目標を達成するために、様々な取組をしてきたが、今回は平成24年度に行われた学校間交流の実践について報告する。

本校が交流させていただいたのは、横浜市立永田台小学校だった。交流することで児童は学校を取り巻く環境が違うことに気付いた。馬籠小学校が、自然に恵まれた環境で生活しているのに対して、永田台小学校は大都会の団地に囲まれた中で生活している。つまり、環境が違うということは人・もの・こと・社会・自然が違うということだ。子どもたちは学校紹介の新聞のやりとりをする中で、自分たちの地域を多面的に考えることができるようになった。次に国語科で書いた作品や録画した映像を送った。児童は相手意識をもつことで書くこと、話すことに、積極的に取り組み、自分の考えや気持ちを伝えようと工夫することができるようになっていった。さらに、地域の歴史や文化を学ぶ「馬籠歴史探検隊」の学習ではパソコンで新聞を作成し、学習のまとめを送ることができた。

今回の交流では、お互いの学習を紹介し合うことができたが、それについての感想や意見の交流ができなかったのが課題だ。今後は、計画的に交流を進めたり、様々なメディアを活用したりすることで双方向でのやりとりができるように工夫していきたい。

第3分科会② 学校間交流（海外）

ESDを軸とした学校間交流

田中 誠一（大阪教育大学附属高等学校池田校舎 教諭）

1. 本校でのESDに関する取り組み

それまでの総合的学習の時間の取り組みを含め、2004年1月にはASPnetに加盟承認をされた。翌2005年12月には、総合的学習の時間の展開を、ESDを中心にしたものに再構築を行い実践を開始した。以後、現在に至るまでESDを中心に据えて、年度により扱うテーマの差異はあるものの、継続的に実践を続けている。

具体的には以下のとおりである。

- | | | | |
|------|-----|-----------|--|
| 第1学年 | 1単位 | 2クラス合同で実施 | ASPnet校としての心構えと、ESDの基本的知識の習得 |
| 第2学年 | 2単位 | 4クラス合同で実施 | ESDについてテーマを設定し、調べ、討論し、発表する活動を
中心に展開 |

2. 共同実践

- | | |
|-------------|-----------------------------|
| 2004年4月 | 大阪3校とアジア4か国のASPnet校の教員生徒と交流 |
| 2006年5月 | 大阪3校とアジア5か国の高校教員と国際シンポジウム |
| 2008年11月 | アジア・北欧7か国高校生国際会議 |
| 2009年、2010年 | ESD国際カリキュラム開発 |

3. 韓国との交流による取組

- | | |
|----------|---------------------------------|
| 2009年11月 | 生徒8名、韓国へ訪問（ESDディスカッション） |
| 2010年11月 | 生徒8名、韓国から訪日（ESD国際カリキュラム） |
| 2011年11月 | 生徒8名、韓国へ訪問（「環境正義」をテーマにディスカッション） |
| 2012年11月 | 生徒8名、韓国から訪日（総合の授業を共同学習） |

第4分科会 地域素材の活用

「知ろう！考えよう！行動しよう！坂浜」

松坂 章二（稲城市立稲城第二小学校 校長）
鈴木 千津（稲城市立稲城第二小学校 主幹教諭）
高垣 大介（稲城市立稲城第二小学校 主幹教諭）
大橋 佑基（稲城市立稲城第二小学校 主幹教諭）

1 ねらい

本校では、「2050年に持続可能な社会を担っていける人材」づくりを目指し、「どのような学びの中で」「どう育てていけばよいのか」、さらには「具体的な授業の中で、どう展開させていけばよいか」をE S Dの考え方を軸にして研究してきた。

2 実践内容

(1)「6年間で学ぶ稲作活動」 全学年

6年間、稲作活動に携わり、6年間のゆったりとした体験や学びの中で、美しい谷戸にある棚田の田んぼを、児童に原風景として刻んでいくことで、地域を愛し、地域を誇りに思う心情を育てる。

(2)「いなぎ自まんの特産品 高尾ぶどうを守ろう！」 第3学年

ぶどう農家の方と繰り返し接し、その思いを聞く中から新たな課題を見付け、活動を深めていく。また、ぶどう農家の方の切実な思い、地域に存在する大きな問題を知ること、自分たちにできることを考え、できることを行動に移す実行力を身に付ける。

(3)「動き出そう！坂浜プロジェクト」 第6学年

生活する自分たちの町「坂浜」の都市計画について考え、そこには、行政の思いや地域の願いなどたくさんの考えがあることを知り、それらの考えの「自分にとっての価値」について考えることで、地域に対する愛情を深め、地域の価値を再確認する。

3 成果

地域を題材とした体験や学びを通して、児童は、地域の人や自然、伝統や文化とつながり、そのよさや価値を発見し、自分たちを取り巻く社会や環境へ、働きかけようとする心情が育ってきた。

第5分科会 教材開発

企業との連携で進める教材開発を通して

～長期的視野をもって支えていく子どもたちの学び～

笹森 肇（多摩市立青陵中学校 校長）
佐々木 雅一（多摩市立青陵中学校 教諭）
隅田 克思（多摩市立南鶴牧小学校 主幹教諭）
横山 喜一郎（野村総合研究所 C S R推進室長）
中村 健一（東京ガス多摩支店 副支店長）

本分科会では、多摩市内の学校の2つの事例を通して、学校と企業が連携して進める教材開発はどのようなものなのか、また、学校と企業はそれぞれに、どのような視点をもって連携するとよいのかを議論していく。さらに、学校と企業の連携した取り組みが、子どもたちにとってどのような学びの成果につながっていくのかを考える。

＜東京ガス株式会社+南鶴牧小学校：エネルギー環境教育＞

地球環境と調和した新たなエネルギー利用の形が模索されている今日、天然ガスの「ESD（Energy For Sustainable Development）」としての役割は重要になっている。暮らしに欠かせないエネルギーについて正しい知識を習得し有効利用について考えることは、ESDの重要なテーマのひとつである。東京ガスは1都8県の供給エリアで「エネルギーと環境」をテーマに社員による出張授業を開催し、次世代を担う子どもたちがエネルギーの大切さに気づき、資源問題と向き合うことを目指した取り組みを行っている。南鶴牧小学校では、下記のすべての講座メニューを継続的に実施している。



エコクッキングの実施

1 「くらしを支えるエネルギー」①歴史編②資源編③仕事編

（社会科・総合的な学習の時間向け/所要1時限/小学校3年生～中学生まで各ステップ）

2 「燃料電池ってなんだろう？」

（理科・総合的な学習の時間向け/所要1時限/小学校6年生から中学校3年まで各ステップ）

3 「育むエコ食（ガスの調理を体験できるエコ・クッキング）」

（家庭科・総合的な学習の時間向け/所要 事前講義1時限+実習2時限）

（東京ガス多摩支店 副支店長 中村 健一）

＜野村総合研究所+青陵中学校：キャリア教育プログラム＞

ESD（持続可能な開発のための教育）を重要施策と位置付ける多摩市教育委員会は、平成18年度よりキャリア教育の一環として多摩商工会議所と連携し、「未来を拓く職場体験事業」を展開している。市内の事業所で市内の公立中学校2年生全員が5日間の職場体験を行っている。本校では、現在行っている職場体験の取組をさらに充実させるため、地元多摩市に立地する企業の一つである株式会社野村総合研究所と連携し、職場体験の事前学習として、中学2年生対象にキャリア教育プログラム「便利を支える情報システムの秘密」を実施した。さらに、中学3年生を対象に課題解決学習を進めるため、「IT戦略体験プログラム」を実施した。前半では、これらのプログラムを実施することで得られた生徒の学びについて紹介する。さらに、本校では、総合的な学習の時間や各教科で3年間を通じて、さまざまな企業や地域との連携を目指し、教育課程上に位置付けている。現在行っている総合的な学習の時間の内容について、作成した指導計画「学びの地図」をもとに、実践を振り返り、企業や地域と連携する上での成果と課題を整理し、報告する。



キャリア教育プログラムの実施

（多摩市立青陵中学校 校長 笹森 肇）

第6分科会 地域連携

自然環境分野における大学と市民による学校支援の充実

～学校林の保全活動と学校のエディブルヤード化（食育菜園）の活動を通して～

小林 佳世（多摩市立豊ヶ丘小学校 校長）
松田 孝（多摩市立東愛宕小学校 校長）
小林 幹夫（恵泉女学園大学 人間社会学部 社会園芸学科 教授）
芳野 俊彦（多摩市役所環境部 公園緑地課 課長）
川添 修（多摩市グリーンボランティア連絡会 代表）

多摩市では、「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズに、平成21年度よりESD（持続可能な開発のための教育）の推進を重要施策とするとともに、現在、市内の公立全小・中学校がESDの推進拠点であるユネスコスクールに加盟している。一方、多摩市環境部公園緑地課では、みどり豊かで快適なまちづくりをめざし、「多摩市グリーンライブセンター」を都市の緑地化を推進していくためのみどりの拠点として位置付けた。この施設の有効活用を図るとともに、みどりと環境に関する事業の円滑な実施のため、現在は、市民団体である多摩市グリーンボランティア連絡会及び恵泉女学園大学と多摩市との三者連携による管理運営を行っている。今回は、ESDの推進を念頭においた、多摩市のユネスコスクールと多摩市グリーンライブセンターとの連携による2つの事例を紹介する。

（多摩市役所環境部 公園緑地課課長 芳野 俊彦）

＜豊ヶ丘小学校「学校林活用・再生プロジェクト」＞

豊ヶ丘小学校の敷地内西側には、多摩ニュータウン開発時（1970年代）に斜面樹林地として残された樹林地と、斜面造成後に植栽された樹林地を合わせた7100平方メートルの学校林がある。規模としては都内最大級である。感じる・遊ぶ・発見する・観察する・使う・育てる・広めるといった学びの場・育ちの場であり、学校の宝・地域の宝である。薪炭林から学校林となり約40年を経たことを踏まえ、持続可能な教育の場としての維持管理が喫緊の課題であることから、この貴重な学校林の活用と再生を行いたいとの校長の要請を受け、学校・地域・保護者・多摩市グリーンボランティア連絡会の協働による「学校林活用・再生プロジェクト」が始まった。生物多様性豊かな樹林地となるとともに、子どもたちにとって豊かな学びと体験になることを目指した活動である。豊ヶ丘小学校の子どもたちが、今の学校林に慣れ親しむとともに、現状を見つめ、今後の未来の学校林を思い描きながら、今できることを考え、実行できることを期待している。

（多摩市グリーンボランティア連絡会 代表 川添 修）



伐採したコナラを運ぶ児童

＜東愛宕小学校「学校のエディブルヤード化（食育菜園）プロジェクト」＞

敷地の南側斜面には広大な雑木林が広がる。1学年あたり、80平方メートルの学年・学級園、ザリガニが多く生息する観察池、それに隣接する24平方メートルの水田を教材として活用できる。さらに今後は、新校開校に伴い、雑木林の一部には果樹園が造られることもふまえながら、現在、この環境を積極的に活用した学校のエディブルヤード化（食育菜園）や森林の保全活動、そして生き物との共生を目指すプログラムを作成しているところである。今年度1学期は、恵泉女学園大学社会園芸学科との連携し、「有機による野菜栽培を体験させることで、児童達に人間と自然とのかかわりや共生、循環等の環境に気付かせるとともに彼等の情操をも育む」ことをねらいとした菜園教育の活動を行った。この取り組みの成果を報告するとともに、今後は、この活動をきっかけとして、本校の強みをいかした環境教育の取り組みを積極的に推進していきたいと考え、次年度以降計画しているプログラムを紹介する。

（多摩市立東愛宕小学校 校長 松田 孝）



実ったナスの収穫

第7分科会 国際理解教育

「留学生が先生」

河村 光之（東京都江東区立深川第一中学校 研究主任）

グローバル化が加速する反面、中学生の段階で世界の人々と実際にコミュニケーションをとる機会があることは非常に稀である。そのような状況の中で、実際の外国の人々と接し、様々な方法により、他国の文化・実情を学ぶことで、社会科や総合的な学習の時間などで学習する内容に、より新鮮なリアリティーのある刺激を子どもたちに与えることが出来た。

本年度は、「国際理解支援協会」の協力の下、シリア・キルギス・ベネズエラ・インド・コンゴ民主共和国・ベトナムの留学生を招き、日本と母国の相違点や文化・宗教・世界遺産についての講義を依頼した。

授業実践前の子どもたちは、英語圏以外の外国人に対し、興味は大変あるが、どのようにコミュニケーションをとれば良いのか、また、ニュース・新聞などのマスメディアの情報から推測する国のイメージが先行してしまい萎縮する部分が見られたが、授業が始まると笑顔の留学生に安心したのか活発なコミュニケーションが生まれていった。

現在の世界各国の情勢・文化は、社会科などの授業の他にマスメディアからの情報などにより伝えられる。たとえば、イスラム圏でのテロ・国内の紛争などは、その国の人々や宗教のイメージまで「怖い」という感覚が自然と浸透してしまっている感がある。

そのような状況の中、実際にその国に暮らす人々や宗教の特色に触れることは、間違ってとらえられている子どもたちのイメージを払拭し、広い視野を持たせる上で重要であると実感した。世界に貢献できる人材は、学校教育の場で今回のような取り組みを行っていくことが重要と考える。



第8分科会 環境教育

見つめ直そう私たちの小串

～ふるさと小串の海を持続していくために自分たちでできること～

早川 泰文（岡山県岡山市立小串小学校 教諭）

（1）小串小学校の紹介

岡山市の東南端の児島湾を望む半島部に位置し、創立140周年を迎えた。児童は31名で、完全複式の小規模校である。海が身近にありながら、普段は目を向けることが少なくなっているのが現状である。身近な海に目を向け、海や人と関わりながら、環境問題にも目を向けていくことができる児童に育てていきたい。

（2）平成25年度 高学年の取り組み

①小串ってどんな所 <4月>

小串の良さを出し合いながら、この一年総合的な学習の時間で取り組んでいく方向性を話し合った。

②つば網（伝統的な定置網漁）体験 <5～6月>

④事前学習 地域の方や保護者に教わりながら、魚の3枚おろしの体験を行った。

④つば網当日 近くの相引海岸から、地元漁協が用意した小型漁船に乗り込んだ。漁から戻ると、3枚おろしの体験を生かして、自分たちで魚をさばいた。

④振り返りと自分たちでできること 作文に書き全体で体験を振り返り、環境を守る活動への取り組みにつながった。



③海岸の清掃活動 <7～9月> *中学校区全体の取組

④ポスター作り 地域の人の参加を呼びかけるポスターを作り掲示した。

④清掃活動当日 中学校と合同で、3か所の海岸に分かれて清掃活動を行った。

④アマモ（海のゆりかご）学習 <10月～>

④種の選別作業 数名の児童が夏休み中に参加し、他の児童にその様子を伝えた。

④種植え体験 砂と海水を入れて実際の海中を模した透明のビン内に、ピンセットでアマモの種をまいた。

④振り返りと自分たちでできること 作文に書き全体で体験を振り返り、アマモを育て観察する活動へつながった。

④海への植え付け 3月、育てたアマモをダイバーに託し、海に植え付けてもらう。一年を振り返り、ふるさとの海で進学、進級への心意気を誓う。

（3）成果と課題

体験学習に対して目的意識をもって主体的に取り組む力や、振り返りを大切にすることにより自分で考えて次の活動や学習につなげる力がついてきている。今後児童自身が成果をまとめ自分の生き方とつなぎゴールにした

第9分科会 ESDの成果

「教師」「子ども」「保護者・地域」を変化させ、学校を活性化させたESD

黄地 建男（東京都江東区立八名川小学校 教諭）

1. 教師の変化（教育観や指導観が変わり、教師としての資質向上）

（1）各教科とのつながりを意識した指導

ESDカレンダーを作成し、教科横断的な学びの構築を図った。

（2）体験を伴った学びの定着

指導計画に活用する地域人材を明記し、体験を伴った学びを計画的に進めた。

（3）指導資料の蓄積と更新

NEW！ESDカレンダーを開発し、指導の継続性や発展性を高めた。

（4）問題解決的な学習の充実

具体的な学習活動を明記した単元展開シートを作成し、指導の一般化を図った。

2. 子どもの変化

（1）多様なアイデアが溢れだすクラス

正答がないテーマを学ぶことで、多様なアイデアを出し合えるようになった。

（2）少数の意見も大切にできるクラス

視点をもとに意見を集約させることで、光る少数意見を見いだす場面を作った。

（3）発信力・表現力が豊かなクラス

単元のまとめに伝え合う場を設定し、様々なプレゼンの手法を身に付けた。

3. 保護者・地域の変化

ESDに対する理解を深める機会を増やすことで、授業に対する見方が変わり、保護者・地域の協力を得た授業が更に展開しやすくなった。

「学校現場では、ESDの成果をどうとらえているか？」

多摩市教育委員会 統括指導主事 石井 正広

多摩市では、平成21年度より「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズに、ESDを重点事業として推進し、現在、市内全小・中学校がユネスコスクールに加盟している。

これまで、ESDの計画的・継続的な実践に向けて次の取組を行ってきた。

- グリーンカーテンプロジェクトを全校で実施し、校内から市民へと活動を広げる取組
- 教員の「ESD研修会」、地域と協働する「多摩市みらい会議」、「市民講座」の開催
- ESDカレンダーの作成やESDを学校評価項目にする等の教育課程に位置付ける取組
- ESD推進担当教員を全校に置き、校内の計画や環境の整備、外部人材を活用する取組
- ACCUと連携した「ユネスコ地域交流会」や「海外教員派遣交流」の実施
- 玉川大学と連携した「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」の構築

各学校では毎年実践を積み重ね持続可能な社会の担い手を育む教育が定着しつつある。

小学校における成果

多摩市立多摩第一小学校 校長 棚橋 乾

ESDでは、児童の思考と体験が行き来する中で、考える力や意欲を高めることが必要である。総合的な学習の時間を中心にした多様な活動を、問題解決学習の流れにもとづいて、児童が工夫した計画やアイデアで活動させることで、高い達成感をもたせることができた。本校の地域や多摩川、環境、国際理解を題材にした学習活動、また他校との交流活動の中で、児童はたいへん意欲的な活動を見せる。活動後には「子供だけで、こんな活動ができると思わなかった。」と感想を述べている。ESDによって、児童が工夫したり協力したりして問題を解決する力を向上させ、活動への高い意欲を得ることができた。また、ESDを実践する教師は、問題解決学習の手法を活用した、児童主体の学びとして指導することが重要なことは言うまでもない。そのため、教師が支援者やファシリテーターとなったり、問題解決学習の指導方法を身につけたりしたことが、指導力向上につながった。

中学校における成果

多摩市立東愛宕中学校 校長 富田 広

本校では、昨今、失われがちな豊かな心を生徒が持ち続けることを持続可能にするために、「開かれた学校」として、地域の人々と共に学校教育を進めてきた。そこで、「人と人」、「人と社会」、「人と自然」の関わりを大切にすることで、「ボランティア活動」、「職場体験」、「グリーンカーテンづくり」、「日本や外国の学校との交流」などの参加型体験活動を「つながりや関わり」を重視したESDの視点で再構築し、実践してきたことである。結果、生徒や教師、地域の人々に大きな変化が生じてきた。アンケートによる生徒の意識調査から、「社会の一員としての意識」、「他者と協力する態度」、「地域貢献、福祉活動を意識した職業観」、「ボランティア活動や奉仕の精神」、「自然環境への興味・関心」などで、顕著な向上が確認できた。また、自分たちだけで学校教育を進めることに限りを感じていた教員たちは地域の人々との連携により、指導内容に幅と奥行きが生じ、教育理念の具現化が加速されたことを実感し、「開かれた学校教育」に対する意識が高まった。なお、生徒達と接する機会が多くなった地域の人々は、「地域の宝である子供達を学校を含む地域で育てることの大切さ」を、今まで以上に意識するようになった。

ESDのさらなる発展を目指して

—取り組みの成果をどうとらえるか—

気仙沼市教育委員会 副参事兼指導主事 及川 幸彦

2002年のヨハネスバークサミットにおいて我が国から提唱され、2005年からスタートした「国連・持続可能な開発（発展）のための教育の10年」（DESD）は、来年で最終年を迎え、これまでの10数年にわたる取組の総括と最終年を越えた展望が求められている。

この間、日本では、関係省庁連絡会議等の行政はもちろん、大学やNPO/NGO、企業や産業団体、そして学校や地域など、「多様な主体の参画と協働」によるESDを推進してきた。特に学校教育においては、文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会の主導の下、2008年に「ESDの普及推進のためのユネスコ・スクール活用」について提言し、ユネスコスクールを学校教育におけるESD推進の拠点と位置付け、全国的に普及・展開を図ってきた。

来年、DESDの最終年世界会議を日本で開催するにあたり、特に学校を核とするESDの取組をどのように評価し、その成果と今後の方向性を国内で共有し、世界に向けて発信していくのか、その観点や方策について、ユネスコスクールをはじめとする教育現場の視点から検討することで、2014年を越えた持続可能な社会を構築するための教育の継続と発展、すなわち「ESDの持続発展（SD）」について、以下の視点から迫りたいと考える。

【学校教育におけるESDの検証の視点】

- 1 ESDにより学びの質がどのように高まったか。＜カリキュラムの改善＞
- 2 ESDにより校内体制及び地域の連携が構築されたか。＜推進・連携体制の構築＞
- 3 ESDにより児童生徒の能力・態度にどのような変容が見られたか。＜子供の変容＞
- 4 教員や保護者、地域にESDの理念や必要性が共有されたか。＜理念の共有＞
- 5 ESDが、防災・復興等、地域の諸課題解決に貢献できたか。＜地域社会への貢献＞



図1 気仙沼ESD/RCE円卓会議2013
平成25年10月25日(金)面瀬小学校



図2 気仙沼市立小原木中学校
「海拔表示プロジェクト」

「ESDのさらなる発展を目指して一取り組みの成果をどうとらえるか」 ホリスティックな人間形成に向けて

宮城教育大学 学長 見上 一幸

人間のさまざまな活動の増大が地球環境や社会環境に大きな影響を与える時代にあって、“持続可能な社会づくりのための担い手づくり”としてのESDがますます重要になり、ESDを推進するユネスコスクール・ネットワークの役割は大きいといえます。現在、社会全体でのESDの認知度は低いものの、ESDが教育現場には浸透しつつあり、環境教育、国際理解教育、防災教育、人権教育など、さまざまな分野からのアプローチがなされていることは心強いことです。そこで、ユネスコスクールの現状と今後について、考えるところを申し述べたいと思います。

1. 学校教育では、結果として子どもたちの能力や行動に変容がみられるべきで、ESDはクリティカル思考、システム思考、コミュニケーション能力など、さまざまな能力向上やOECDのキー・コンピテンシーやPISA型学力の向上にもつながること。
2. 学校におけるESDで、教師の役割が重要であることは言うまでもないが、教師がその力量を増すために、大学、特に教員養成大学や教育委員会は、研修会や免許状更新講習などで、ESD研修の機会を増やすべきであること。
3. 質の高い教育のためには、積極的に教師と学校を支援するネットワークが重要である。ユネスコスクールを支援する大学など高等教育・研究機関、地方のユネスコ協会などの団体、NPO、企業など、ESD活動をサポートするステイクホルダーの存在が一層重要であることの再認識。
4. ユネスコスクールは、質の高い学校間ネットワークであり、学校間の交流を通じて、相手の良さに気づき、自分たちの良さにも気づく機会を提供してくれる。さらに、外国の学校との交流もさらに大きな発見や気づきに導くとともに、コミュニケーション能力など、大きな成果をもたらしてくれることが期待されること。

ESDは、“持続可能な社会づくりのための担い手づくり”として、持続可能な社会の実現に向けてホリスティックな人格の形成であるともいえます。そしてユネスコスクール・ネットワークは、その実現に向けて新たな可能性を提供してくれるものと信じております。

持続可能な開発のための教育(ESD)のさらなる発展のために

—実践検証の視点—

国士舘大学教授 北 俊夫

1 ESDを学校の共通課題にするために

(1) 次のような素朴な疑問にどう答えるか

- ・ ESDの視点を取り入れた環境教育と従来の環境教育とはどこがどう違うのか。
- ・ 「持続可能な社会を創造することを目指す教育を実現する観点から吟味する」とか「持続可能な開発のための教育という新しい視点から捉え直す」と言われるが、そのための手順は具体的にどうすればよいのか。
- ・ これまでも環境、国際、伝統文化、平和、人権などの課題には取り組んできた。ユネスコスクールに参加すると、これまでの取り組みの何がどう変わるのか。

(2) ESDを誰にでも分かりやすい教育活動にするために

- ・ 「『持続可能な開発のための教育』を学校教育の中で推進するに当たっては、環境教育、国際理解教育、人権教育など、多岐にわたる分野をつなげて総合的に取り組むこと」(「ESDの普及促進のためのユネスコスクール活用についての提言」日本ユネスコ国内委員会、平成20年より)の活動のイメージ化と授業の具体化をどう図るか。
- ・ 持続可能な開発のための教育、グローバル教育、国際教育などの類似概念を整理すること。
- ・ 「持続可能な開発のための教育」の目標、内容、方法を具体化した、小学校、中学校、高等学校等の体系的なカリキュラムを開発し例示すること。

2 ユネスコスクールの教育課程編成・実施にかかわる課題

(1) 取り組み状況の評価

- ・ 学校評価に位置づけ、全校体制で実施すること。保護者等外部からの評価も。
- ・ そのためには、自校としてのESDの目標の明確化、具体化が必要。
- ・ 子どもの成長、教育活動の状況を定性的、定量的に評価し、結果を改善に生かす。

(2) ESDを教育課程にどう位置づけ、取り組みをどう持続的に発展させるか。

- ・ 現行の教育課程においてESDのための特別な時間枠はない。→教科等での扱い方と「総合的な学習の時間」の有効活用。
- ・ 校長や中核教員が変わっても活動を継続させる体制づくり

(3) 多様な視点からのネットワークづくり

- ・ 多様な教育課題を関連づけ、総合化した取り組み。
- ・ ユネスコスクール相互のネットワークと、未加入校への働きかけ。
- ・ 地域の関係機関(行政、民間、大学等)、団体との協同。
- ・ 学校単位から地域ぐるみ(教育委員会単位)の取り組みに。点から面へ。

◇おわりに

- ・ 教育成果の発信力－結果を「うち」に留めない－

ESDの充実・発展に寄与する総合的な学習の時間の実践

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程調査官

田村 学

1. ESDが期待する人材の育成と社会の変化
2. 求められる概念の形成と能力の育成
3. 総合的な学習の時間の構成とESD
4. 子供が変わる、教師が変わる、学校・家庭・地域が変わる

カシオ計算機株式会社

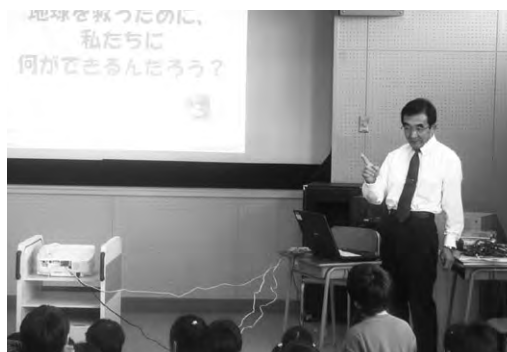
CASIO®

「命の授業」の取り組み

持続可能な社会の実現を望み、2007年6月に立ち上げた出前授業:「命の授業」の実施は、2013.10.31現在で施行期間も含め、小・中学校を主体に延べ272の機関(幼稚園~大学、NPO、PTA等)、22,548名を数えました。(2012年度は東日本大震災で被害を受けた北関東以北の小・中学校6校でも実施)。すべての社会事象に内在する「命の大切さ」を伝えることで、将来のリーダーたる子どもたちの、社会及び地球環境への意識を喚起し、持続可能な開発のための教育を根幹とした社会の実現へ思いを馳せております。授業の根幹は、「全てとの絆」、「命のつながり」、そして、「心の成長」に置いており、又、「真実」を伝えることで、「気付き」を、“本気で語る”ことで、「意識の醸成」を、そして、“変革を促す”ことで、子どもたちの「行動」を喚起することを目指したものでございます。文部科学省主催のシンポジウム、及び全国からご要請を頂く各地域での講演活動にも繋がっており、父兄の方々との触れ合いも通じ、大人社会への発信も同時進行しております。本授業が、真の持続可能な社会実現への糸口となり、広く社会に浸透することを願い、今後も積極的な活動を展開して参ります。

<問い合わせ先>

カシオ計算機株式会社 CSR推進室 若尾 久 TEL:03-5334-4901



P&Gジャパン株式会社

P&G

P&Gは、世界で事業を展開する生活消費財メーカーであり、アリエールやパンテーンなどを展開する一方、サステナビリティ(持続可能性)を重視し、社会貢献活動にも力を入れています。ESD推進については、当社のもつ水に関する知識を生かして作成した「P&G環境教室~水と生活~」という出張授業プログラムを提供しています。本プログラムの内容は学習指導要領に基づいており、実際の学校の授業と関連づけながら、当社が製品開発から培った水の知識を組み込み、クイズや実験などをとおして総合的に目と体で感じながら学べます。本社のある兵庫県で2008年よりスタートし、現在は工場のある群馬県高崎市でも行っています。また2009年から全国の小学校向けに、授業用パワーポイント・テキスト・学習の手引きの無償配布を継続しています。

昨年度までに延べ約9600人の児童に出張授業を行い、全国469校93,238人に学習セットを配布しました。

<問い合わせ先>

P&G環境教室 教材事務局

TEL: 03-3545-3651



「田んぼの生きもの調査」

全農では、経営理念の一つである「地球の環境保全に積極的に取り組みます」にもとづき、「田んぼの生きもの調査」に取り組んできました。水田は、単にお米を生産するだけでなくメダカやドジョウ、カエルなど多様な生きものを育んできました。この活動は、田んぼに足を踏み入れたときの水の冷たさや風の涼しさを実感し生きものに触れることから生物多様性の意義やいのちをいただくことの大切さを五感をフル活用しつつ考えてみようというもので、「出前授業」の形式で実施しています。学校田で田植えや稲刈りを実施している場合は、その田んぼを利用して「生きもの調査」が可能です。「生物多様性」の座学と合わせて実施することで、理解がより深まります。

その他、全農は「弁当の日」応援プロジェクトに参画し、当活動の拡大を支援しています。お弁当作りを通じて、食の大切さやその向こう側にある「農業」について子どもたちの理解が深まり「生きる力」を自ら身につけてくれることを願っています。

<問い合わせ先>

全国農業協同組合連合会（JA全農）

広報部広報SR課：山崎、作山

〒100-6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号

TEL：03-6271-8056 FAX：03-5218-2506



ユネスコキッズ supported by NTT docomo

小学生のための世界自然遺産プロジェクト

ユネスコキッズ supported by docomo

世界自然遺産を題材に『自然に興味を持ち、自然を深く学び、好きになってもらう』プログラム

「ユネスコキッズ」は、日本の将来を担う子どもたちを対象に、世界自然遺産を通じて自然に関心を持ち、好きになってもらうことで、自然を保護する気持ちを醸成することを目的とした活動です。2006年の発足以来、世界自然遺産を紹介するWebサイト「ユネスコキッズ」の運営とともに、「本物」に触れる機会として、国内の自然遺産を訪問する課外授業や出張授業等を実施してまいりました。

2013年度からは、小学校におけるタブレット端末を活用した学習プログラムを支援しています。その初回として、豊橋市立牛川小学校の生徒を対象に、知床などの自然の豊かさを学ぶ授業を実施しました。子どもたちがタブレットを操作しながら、好奇心を持って世界自然遺産への理解を深められるとともに、ネットマナー習得やICTリテラシーの向上にもつながることを願っています。

<問い合わせ先>

ユネスコキッズ事務局 TEL：03-6268-8673



“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

ユニクロでは、2006年より、不要になったユニクロ商品のリユース・リサイクルを行う『全商品リサイクル活動』を実施しております。回収した衣料は主に、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）を通じて、世界中の難民・避難民のもとに届けられます。

全商品リサイクル活動の一環として、小・中・高校と連携し、“届けよう、服のチカラ”プロジェクトを実施しています。本プロジェクトは、ユニクロ社員が出張授業を実施し、服のもつチカラや、寄贈した服がどのように役立てられているのかをレクチャーします。その後、子どもたち自身がポスターやチラシを作成して校内や地域に告知をし、回収・発送を行ないます。衣料の寄贈後には、ユニクロから難民キャンプでの寄贈レポートを各学校に共有します。

2013年度は全国の小中高107校が参加し、学校関係者からは、「国際問題や環境問題への関心や理解を深めることにつながった。」「地域とのつながりが強くなった。」「社会貢献への意識が変わった」などご好評を頂いております。未来を担う子どもたちにこの活動を通して、社会に貢献できるチカラを感じ取ってもらえることができればと思います。

<問い合わせ先>

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト事務局 TEL:03-5565-6551

E-mail:fukunochikara@fastretailing.com



ユネスコスクール一覧（2013年10月現在）

区分	学 校 名	都道府県	市町村
幼稚園	湖畔幼稚園	北海道	釧路市
	わかばフレンド幼稚園	北海道	釧路市
	みはらフレンド幼稚園	北海道	釧路市
	愛国フレンド幼稚園	北海道	釧路市
	清泉幼稚園	北海道	室蘭市
	羅臼町立羅臼幼稚園	北海道	羅臼町
	羅臼町立春松幼稚園	北海道	羅臼町
	気仙沼市立馬籠幼稚園	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立唐桑幼稚園	宮城県	気仙沼市
	かおり幼稚園	山梨県	甲斐市
	愛知教育大学附属幼稚園	愛知県	名古屋市
	奈良市立富雄北幼稚園	奈良県	奈良市
	奈良市立六条幼稚園	奈良県	奈良市
	奈良市立二名幼稚園	奈良県	奈良市
	鳳鳴乃里幼稚舎	佐賀県	佐賀市
小学校	厚岸町立太田小学校	北海道	厚岸町
	石狩市立生振小学校	北海道	石狩市
	石狩市立双葉小学校	北海道	石狩市
	恵庭市立松恵小学校	北海道	恵庭市
	江別市立対雁小学校	北海道	江別市
	小樽市立高島小学校	北海道	小樽市
	千歳市立緑小学校	北海道	千歳市
	千歳市立末広小学校	北海道	千歳市
	北海道教育大学附属釧路小学校	北海道	釧路市
	斜里町立峰浜小学校	北海道	斜里町
	羅臼町立羅臼小学校	北海道	羅臼町
	羅臼町立春松小学校	北海道	羅臼町
	更別村立更別小学校	北海道	河西郡
	留寿都村立留寿都小学校	北海道	留寿都村
	宮城教育大学附属小学校	宮城県	仙台市
	仙台市立中野小学校	宮城県	仙台市
	角田市立東根小学校	宮城県	角田市
	気仙沼市立水梨小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立浦島小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立大島小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立面瀬小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立鹿折小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立新城小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立中井小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立白山小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立階上小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立松岩小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立月立小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立落合小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立唐桑小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立気仙沼小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立九条小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立小原木小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立馬籠小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立津谷小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立大谷小学校	宮城県	気仙沼市
	栗原市立高清水小学校	宮城県	栗原市
	白石市立白石第二小学校	宮城県	白石市
	白石市立白川小学校	宮城県	白石市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小学校	白石市立小原小学校	宮城県	白石市
	白石市立白石第一小学校	宮城県	白石市
	大崎市立鳴子小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立鬼首小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立大貫小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立鹿島台小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立鹿島台第二小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立沼部小学校	宮城県	大崎市
	大和町立鶴巣小学校	宮城県	大和市
	富谷町立日吉台小学校	宮城県	富谷町
	丸森町立金山小学校	宮城県	丸森町
	新庄市立北辰小学校	山形県	新庄市
	新庄市立新庄小学校	山形県	新庄市
	新庄市立沼田小学校	山形県	新庄市
	須賀川市立白方小学校	福島県	須賀川市
	足利市立東山小学校	栃木県	足利市
	高崎市立六郷小学校	群馬県	高崎市
	藤岡市立美九里西小学校	群馬県	藤岡市
	前橋市立大胡東小学校	群馬県	前橋市
	熊谷市立久下小学校	埼玉県	熊谷市
	熊谷市立佐谷田小学校	埼玉県	熊谷市
	さいたま市立新開小学校	埼玉県	さいたま市
	市川市立中山小学校	千葉県	市川市
	市川市立稲越小学校	千葉県	市川市
	市川市立鶴指小学校	千葉県	市川市
	市川市立大野小学校	千葉県	市川市
	市原市立辰巳台西小学校	千葉県	市原市
	千葉市立白井小学校	千葉県	千葉市
	荒川区立尾久宮前小学校	東京都	荒川区
	大田区立赤松小学校	東京都	大田区
	葛飾区立青戸小学校	東京都	葛飾区
	江東区立東雲小学校	東京都	江東区
	江東区立八名川小学校	東京都	江東区
	新宿区立西戸山小学校	東京都	新宿区
	世田谷区立中里小学校	東京都	世田谷区
	東京学芸大学附属大泉小学校	東京都	練馬区
	聖心女子学院初等科	東京都	港区
	目黒区立五本木小学校	東京都	目黒区
	小笠原村立小笠原小学校	東京都	小笠原村
	小笠原村立母島小学校	東京都	小笠原村
	稲城市立稲城第二小学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第三小学校	東京都	稲城市
	稲城市立向陽台小学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第六小学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第七小学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第四小学校	東京都	稲城市
	稲城市立長峰小学校	東京都	稲城市
	稲城市立若葉台小学校	東京都	稲城市
	清瀬市立清明小学校	東京都	清瀬市
	多摩市立永山小学校	東京都	多摩市
	多摩市立西落合小学校	東京都	多摩市
	多摩市立貝取小学校	東京都	多摩市
	多摩市立豊ヶ丘小学校	東京都	多摩市
	多摩市立北諏訪小学校	東京都	多摩市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小	多摩市立南鶴牧小学校	東京都	多摩市
	多摩市立東寺方小学校	東京都	多摩市
	多摩市立多摩第二小学校	東京都	多摩市
	多摩市立多摩第三小学校	東京都	多摩市
	多摩市立東愛宕小学校	東京都	多摩市
	多摩市立連光寺小学校	東京都	多摩市
	多摩市立大松台小学校	東京都	多摩市
	多摩市立多摩第一小学校	東京都	多摩市
	多摩市立聖ヶ丘小学校	東京都	多摩市
	多摩市立瓜生小学校	東京都	多摩市
	多摩市立諏訪小学校	東京都	多摩市
	多摩市立西愛宕小学校	東京都	多摩市
	多摩市立東落合小学校	東京都	多摩市
	調布市立布田小学校	東京都	調布市
	横浜市立永田台小学校	神奈川県	横浜市
	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校	神奈川県	鎌倉市
	新潟市立下山小学校	新潟県	新潟市
	新潟市立上山小学校	新潟県	新潟市
	柏崎市立北鯖石小学校	新潟県	柏崎市
	佐渡市立相川小学校	新潟県	佐渡市
	十日町市立飛渡第一小学校	新潟県	十日町市
	見附市立見附小学校	新潟県	見附市
	見附市立田井小学校	新潟県	見附市
	見附市立上北谷小学校	新潟県	見附市
	見附市立見附第二小学校	新潟県	見附市
	見附市立今町小学校	新潟県	見附市
学	見附市立名木野小学校	新潟県	見附市
	見附市立葛巻小学校	新潟県	見附市
	見附市立新潟小学校	新潟県	見附市
	新潟大学教育学部附属長岡小学校	新潟県	長岡市
	富山市立中央小学校	富山県	富山市
	富山市立寒江小学校	富山県	富山市
	富山市立五福小学校	富山県	富山市
	富山市立光陽小学校	富山県	富山市
	富山市立堀川小学校	富山県	富山市
	富山市立神通碧小学校	富山県	富山市
校	富山市立古沢小学校	富山県	富山市
	氷見市立朝日丘小学校	富山県	氷見市
	金沢市立浅野川小学校	石川県	金沢市
	金沢市立朝日小学校	石川県	金沢市
	金沢市立金石町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立材木町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立四十万小学校	石川県	金沢市
	金沢市立田上小学校	石川県	金沢市
	金沢市立戸板小学校	石川県	金沢市
	金沢市立野町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立森山町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立弥生小学校	石川県	金沢市
	金沢市立中央小学校	石川県	金沢市
	金沢市立花園小学校	石川県	金沢市
	金沢市立鞍月小学校	石川県	金沢市
	金沢市立三馬小学校	石川県	金沢市
	金沢市立味噌蔵町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立三谷小学校	石川県	金沢市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小	金沢市立長坂台小学校	石川県	金沢市
	金沢市立西小学校	石川県	金沢市
	金沢市立大野町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立押野小学校	石川県	金沢市
	金沢市立内川小学校	石川県	金沢市
	金沢市立湯涌小学校	石川県	金沢市
	金沢市立十一屋小学校	石川県	金沢市
	金沢市立明成小学校	石川県	金沢市
	金沢市立千坂小学校	石川県	金沢市
	金沢市立夕日寺小学校	石川県	金沢市
	金沢市立栗崎小学校	石川県	金沢市
	金沢市立犀川小学校	石川県	金沢市
	金沢市立南小立野小学校	石川県	金沢市
	金沢市立伏見台小学校	石川県	金沢市
	金沢市立扇台小学校	石川県	金沢市
	金沢市立泉野小学校	石川県	金沢市
	金沢市立小立野小学校	石川県	金沢市
	金沢市立米泉小学校	石川県	金沢市
	金沢市立杜の里小学校	石川県	金沢市
	金沢市立不動寺小学校	石川県	金沢市
学	金沢市立東浅川小学校	石川県	金沢市
	金沢市立森本小学校	石川県	金沢市
	金沢市立中村町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立新神田小学校	石川県	金沢市
	金沢市立富樫小学校	石川県	金沢市
	輪島市立三井小学校	石川県	輪島市
	内灘町立向栗崎小学校	石川県	内灘町
	内灘町立清湖小学校	石川県	内灘町
	内灘町立鶴ヶ丘小学校	石川県	内灘町
	内灘町立大根布小学校	石川県	内灘町
校	内灘町立西荒屋小学校	石川県	内灘町
	能美市立粟生小学校	石川県	能美市
	坂井市立鳴鹿小学校	福井県	坂井市
	小浜市立内外海小学校	福井県	小浜市
	南アルプス市立芦安小学校	山梨県	南アルプス市
	岐阜市立島小学校	岐阜県	岐阜市
	静岡サレジオ小学校	静岡県	静岡市
	富士市立岩松北小学校	静岡県	富士市
	あま市立甚目寺小学校	愛知県	あま市
	安城市立里町小学校	愛知県	安城市
	一宮市立中島小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立西成小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立浅井北小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立朝日西小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立末広小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立千秋小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立葉栗小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立葉栗北小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立宮西小学校	愛知県	一宮市
	岡崎市立梅園小学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立常磐南小学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立城南小学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立男川小学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立細川小学校	愛知県	岡崎市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小	大牟田市立駿馬北小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立天の原小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立玉川小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立上官小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立大正小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立中友小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立明治小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立白川小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立平原小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立高取小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立三池小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立銀水小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立上内小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立吉野小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立倉永小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立手鎌小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立大牟田小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立羽山台小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立みなと小学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立天領小学校	福岡県	大牟田市
中	玄海町立有徳小学校	佐賀県	玄海町
	玄海町立値賀小学校	佐賀県	玄海町
	宇城市立小川小学校	熊本県	宇城市
	宇城市立海東小学校	熊本県	宇城市
学	札幌市立手稲西中学校	北海道	札幌市
	北海道教育大学附属札幌中学校	北海道	札幌市
	北広島市立西部中学校	北海道	北広島市
	羅臼町立羅臼中学校	北海道	羅臼町
	羅臼町立春松中学校	北海道	羅臼町
	仙台市立南吉成中学校	宮城県	仙台市
	岩沼市立岩沼中学校	宮城県	岩沼市
	大河原町立金ヶ瀬中学校	宮城県	大河原町
	大河原町立大河原中学校	宮城県	大河原町
	角田市立角田中学校	宮城県	角田市
	気仙沼市立面瀬中学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立気仙沼中学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立鹿折中学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立階上中学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立新月中学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立唐桑中学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立大島中学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立条南中学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立小原木中学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立松岩中学校	宮城県	気仙沼市
校	気仙沼市立大谷中学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立津谷中学校	宮城県	気仙沼市
	白石市立小原中学校	宮城県	白石市
	白石市立白川中学校	宮城県	白石市
	白石市立東中学校	宮城県	白石市
	白石市立南中学校	宮城県	白石市
	大崎市立田尻中学校	宮城県	大崎市
	大崎市立古川北中学校	宮城県	大崎市
	南三陸町立志津川中学校	宮城県	南三陸町
	大仙市立大曲南中学校	秋田県	大仙市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
中	新庄市立新庄中学校	山形県	新庄市
	足利市立山辺中学校	栃木県	足利市
	宇都宮市立一条中学校	栃木県	宇都宮市
	成田市立玉造中学校	千葉県	成田市
	大田区立大森第六中学校	東京都	大田区
	江東区立深川第一中学校	東京都	江東区
	江東区立第二南砂中学校	東京都	江東区
	世田谷区立喜多見中学校	東京都	世田谷区
	世田谷区立駒沢中学校	東京都	世田谷区
	聖心女子学院中等科	東京都	港区
	稲城市立稲城第四中学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第三中学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第六中学校	東京都	稲城市
	多摩市立東愛宕中学校	東京都	多摩市
	多摩市立諏訪中学校	東京都	多摩市
	多摩市立聖ヶ丘中学校	東京都	多摩市
	多摩市立多摩中学校	東京都	多摩市
	多摩市立和田中学校	東京都	多摩市
	多摩市立青陵中学校	東京都	多摩市
	多摩市立鶴牧中学校	東京都	多摩市
学	多摩市立落合中学校	東京都	多摩市
	多摩市立多摩永山中学校	東京都	多摩市
	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校	神奈川県	鎌倉市
	横浜市立市ヶ尾中学校	神奈川県	横浜市
	新潟市立巻東中学校	新潟県	新潟市
	新潟市立白新中学校	新潟県	新潟市
	新潟市立横越中学校	新潟県	新潟市
	新潟市立赤塚中学校	新潟県	新潟市
	新潟市立宮浦中学校	新潟県	新潟市
	見附市立今町中学校	新潟県	見附市
	長岡市立南中学校	新潟県	長岡市
	新潟大学教育学部附属長岡中学校	新潟県	長岡市
	南魚沼市立大巻中学校	新潟県	南魚沼市
	富山大学人間発達科学部附属中学校	富山県	富山市
	金沢市立紫錦台中学校	石川県	金沢市
	金沢市立泉中学校	石川県	金沢市
	金沢市立芝原中学校	石川県	金沢市
	金沢市立内川中学校	石川県	金沢市
	金沢市立小將町中学校	石川県	金沢市
	金沢市立兼六中学校	石川県	金沢市
校	内灘町立内灘中学校	石川県	内灘町
	小松市立板津中学校	石川県	小松市
	七尾市立能登香島中学校	石川県	七尾市
	七尾市立朝日中学校	石川県	七尾市
	能美市立根上中学校	石川県	能美市
	敦賀気比高等学校付属中学校	福井県	敦賀市
	南アルプス市立芦安中学校	山梨県	南アルプス市
	信州大学教育学部附属松本中学校	長野県	松本市
	伊豆市立天城中学校	静岡県	伊豆市
	静岡大学教育学部附属島田中学校	静岡県	島田市
	名古屋市立丸の内中学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立汐路中学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立笹島中学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立菊井中学校	愛知県	名古屋市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
中 学 校	名古屋市立前津中学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立若水中学校	愛知県	名古屋市
	愛知教育大学附属名古屋中学校	愛知県	名古屋市
	安城市立東山中学校	愛知県	安城市
	一宮市立萩原中学校	愛知県	一宮市
	岡崎市立竜南中学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立新香山中学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立常盤中学校	愛知県	岡崎市
	豊橋市章南中学校	愛知県	豊橋市
	鈴鹿市立神戸中学校	三重県	鈴鹿市
	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	三重県	鈴鹿市
	三重大学教育学部附属中学校	三重県	津市
	名張市立北中学校	三重県	名張市
	名張市立南中学校	三重県	名張市
	東近江市立五個荘中学校	滋賀県	東近江市
	大阪市立鶴見橋中学校	大阪府	大阪市
	豊中市立第十一中学校	大阪府	豊中市
	豊中市立第二中学校	大阪府	豊中市
	寝屋川市立第十中学校	大阪府	寝屋川市
	松原市立松原第七中学校	大阪府	松原市
	尼崎市立成良中学校	兵庫県	尼崎市
	奈良教育大学附属中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立興東中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立月ヶ瀬中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立三笠中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立柳生中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立平城西中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立二名中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立都南中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立京西中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立富雄中学校	奈良県	奈良市
	橿原市立畝傍中学校	奈良県	橿原市
	和歌山市立伏虎中学校	和歌山県	和歌山市
	岡山市立藤田中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立福田中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立建部中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立光南台中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立京山中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立足守中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立操山中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立御南中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立福南中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立上南中学校	岡山県	岡山市
	山陽女学園中等部	広島県	廿日市市
	広島大学附属中学校	広島県	広島市
	広島市立古田中学校	広島県	広島市
	如水館中学校	広島県	三原市
	熊野町立熊野中学校	広島県	熊野町
	熊野町立熊野東中学校	広島県	熊野町
	周南市立太華中学校	山口県	周南市
	防府市立佐波中学校	山口県	防府市
	北九州市立早鞆中学校	福岡県	北九州市
	大牟田市立船津中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立右京中学校	福岡県	大牟田市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
中 学 校	大牟田市立米生中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立勝立中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立延命中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立松原中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立白光中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立歴木中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立田隈中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立橘中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立甘木中学校	福岡県	大牟田市
	北九州市立尾倉中学校	福岡県	北九州市
	福岡市立元岡中学校	福岡県	福岡市
	宇城市立不知火中学校	熊本県	宇城市
	阿久根市立大川中学校	鹿児島県	阿久根市
	北谷町立北谷中学校	沖縄県	北谷町
中 高 一 貫 等	北海道登別明日中等教育学校	北海道	登別市
	釧路市立山花小中学校	北海道	釧路市
	標茶町立中茶安別小中学校	北海道	標茶町
	斜里町立ウトロ小中学校	北海道	斜里町
	宮城県仙台二華中学校・高等学校	宮城県	仙台市
	仙台育英学園秀光中等教育学校	宮城県	多賀城市
	聖ウルスラ学院英智小中学校	宮城県	仙台市
	茨城県立並木中等教育学校	茨城県	つくば市
	新島学園中学校・高等学校	群馬県	安中市
	市川中学校・市川高等学校	千葉県	市川市
	渋谷教育学園幕張中学・高等学校	千葉県	千葉市
	麗澤中学・高等学校	千葉県	柏市
	東京都足立区興本扇学園	東京都	足立区
	昭和女子大学付属昭和中学校・高等学校	東京都	世田谷区
	田園調布学園中等部・高等部	東京都	世田谷区
	雙葉中学校・高等学校	東京都	千代田区
	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都	練馬区
	晃華学園中学校・高等学校	東京都	調布市
	武蔵野女子学院中学校・高等学校	東京都	西東京市
	新潟県立燕中等教育学校	新潟県	燕市
	山梨英和中学校・高等学校	山梨県	甲府市
	不二聖心女子学院	静岡県	裾野市
	星陵中学校・高等学校	静岡県	富士宮市
	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	愛知県	名古屋市
	立命館守山中学校・高等学校	滋賀県	守山市
	平安女学院中学・高等学校	京都府	京都市
	燈影学園（一燈園小学校・中学校・高等学校）	京都府	京都市
	浪速中学校・高等学校	大阪府	大阪市
	大阪学芸中等教育学校	大阪府	大阪市
	帝塚山学院泉ヶ丘中学校高等学校	大阪府	堺市
	箕面市立彩都の丘学園	大阪府	箕面市
	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県	奈良市
	奈良市田原小中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立富雄第三小中学校	奈良県	奈良市
	清心中学校・清心女子高等学校	岡山県	倉敷市
	広島県立広島中学・高等学校	広島県	東広島市
	高水高等学校付属中学校／高水高等学校	山口県	岩国市
高 等 学 校	市立札幌大通高等学校	北海道	札幌市
	札幌山の手高等学校	北海道	札幌市
	北海道遠軽高等学校	北海道	遠軽町

区分	学 校 名	都道府県	市町村
高 等 学 校	北海道清里高等学校	北海道	清里町
	北海道斜里高等学校	北海道	斜里町
	海星学院高等学校	北海道	室蘭市
	北海道羅臼高等学校	北海道	羅臼町
	北海道礼文高等学校	北海道	礼文町
	北海道留辺蘂高等学校	北海道	北見市
	盛岡中央高等学校	岩手県	盛岡市
	宮城県気仙沼高等学校	宮城県	気仙沼市
	宮城県気仙沼西高等学校	宮城県	気仙沼市
	秋田市立秋田商業高等学校	秋田県	秋田市
	明桜高等学校	秋田県	秋田市
	福島県立安達高等学校	福島県	二本松市
	国際学院高等学校	埼玉県	伊奈町
	筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県	坂戸市
	千葉県立市川昂高等学校	千葉県	市川市
	千葉県国分高等学校	千葉県	市川市
	市原中央高等学校	千葉県	市原市
	千葉県立佐倉南高等学校	千葉県	佐倉市
	千葉県立流山おおたかの森高等学校	千葉県	流山市
	千葉県立千葉東高等学校	千葉県	千葉市
	千葉黎明高等学校	千葉県	八街市
	渋谷教育学園渋谷高等学校	東京都	渋谷区
	東京都立杉並総合高等学校	東京都	杉並区
	筑波大学附属駒場高等学校	東京都	世田谷区
	東京都立三田高等学校	東京都	港区
	聖心女子学院高等科	東京都	港区
	八王子学園八王子高等学校	東京都	八王子市
	慶應義塾高等学校	神奈川県	横浜市
	神奈川県立有馬高等学校	神奈川県	海老名市
	富山国際大学付属高等学校	富山県	富山市
	福井工業大学附属福井高等学校	福井県	福井市
	新潟県立国際情報高等学校	新潟県	南魚沼市
	岐阜聖徳学園高等学校	岐阜県	岐阜市
	静岡県立伊豆総合高等学校	静岡県	伊豆市
	愛知県立刈谷高等学校	愛知県	刈谷市
	愛知県立豊田東高等学校	愛知県	豊田市
	愛知県立千種高等学校	愛知県	名古屋
	名古屋市立山田高等学校	愛知県	名古屋
	中部大学第一高等学校	愛知県	日進市
	三重県立木本高等学校	三重県	熊野市
	京都外大西高等学校	京都府	京都市
	京都市立紫野高等学校	京都府	京都市
	大阪府立北淀高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立住吉高等学校	大阪府	大阪市
	明浄学院高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立西淀川高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立市岡高等学校	大阪府	大阪市
	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	大阪府	池田市
	大阪府立佐野高等学校	大阪府	泉佐野市
	大阪府立長野高等学校	大阪府	河内長野市
	羽衣学園高等学校	大阪府	高石市
	大阪府立能勢高等学校	大阪府	能勢町
	大阪府立枚方高等学校	大阪府	枚方市
	大阪府立松原高等学校	大阪府	松原市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
高 等 学 校	大阪府立北摂つばさ高等学校	大阪府	茨木市
	大阪府立富田林高等学校	大阪府	富田林市
	神戸市立葺合高等学校	兵庫県	神戸市
	兵庫県立三木北高等学校	兵庫県	三木市
	奈良県立法隆寺国際高等学校	奈良県	斑鳩町
	和歌山県立星林高等学校	和歌山県	和歌山市
	和歌山県立串本古座高等学校	和歌山県	串本町
	島根県立島根中央高等学校	島根県	川本町
	岡山県立岡山一宮高等学校	岡山県	岡山市
	岡山学芸館高等学校	岡山県	岡山市
	岡山龍谷高等学校	岡山県	笠岡市
	岡山県美作高等学校	岡山県	津山市
	岡山県立矢掛高等学校	岡山県	矢掛町
	岡山県立和気閑谷高等学校	岡山県	和気町
	広島大学附属高等学校	広島県	広島市
	広島県立広島国泰寺高等学校	広島県	広島市
	広島県立広島井口高等学校	広島県	広島市
	山陽高等学校	広島県	広島市
	広島県立尾道北高等学校	広島県	尾道市
	広島県立呉三津田高等学校	広島県	呉市
	山陽女学園高等部	広島県	廿日市市
	広島県立福山誠之館高等学校	広島県	福山市
	広島県立安芸府中高等学校	広島県	府中町
	如水館高等学校	広島県	三原市
	広島県立三次高等学校	広島県	三次市
	広島県立賀茂高等学校	広島県	東広島市
	広島県立府中高等学校	広島県	府中市
	徳島県立徳島科学技術高等学校	徳島県	徳島市
	香川県立観音寺中央高校	香川県	観音寺市
	香川県立高松桜井高等学校	香川県	高松市
	愛媛県立新居浜南高等学校	愛媛県	新居浜市
	愛媛県立新居浜東高等学校	愛媛県	新居浜市
	福岡県立城南高等学校	福岡県	福岡市
	福岡県立香住丘高等学校	福岡県	福岡市
	福岡県立ひびき高等学校	福岡県	北九州市
	福岡県立武蔵台高等学校	福岡県	筑紫野市
	国立大学法人宮城教育大学	宮城県	仙台市
	玉川大学（教育学部）	東京都	町田市
	愛知教育大学	愛知県	刈谷市
	国立大学法人三重大学	三重県	津市
	国立大学法人奈良教育大学	奈良県	奈良市
	国立石川工業高等専門学校	石川県	津幡町
	見附市立見附特別支援学校	新潟県	見附市
	大牟田市立大牟田特別支援学校	福岡県	大牟田市
	練馬和光保育園	東京都	練馬区
	もみの木保育園太子堂	東京都	世田谷区
	もみの木保育園若葉台	東京都	稲城市
	もみの木保育園長峰	東京都	稲城市
	ナーサリー富田幼児園	徳島県	徳島市
	東京賢治シュタイナー学園	東京都	立川市
	横浜シュタイナー学園	神奈川県	横浜市
	京田辺シュタイナー学校	京都府	京田辺市
	コリア国際学園	大阪府	茨木市

E S D大賞

Education for Sustainable Development Award

N P O 法人日本持続発展教育推進フォーラムでは、E S D (Education For Sustainable Development Award) の取り組みを実践する学校を奨励する「E S D大賞」を2010年より実施しています。

本事業は、全国の小・中・高等学校から実践的研究事例を募り、E S Dの優れた実践を奨励するとともに、その輪を広げ、日本の持続可能な開発のための教育の推進に寄与することを目指し、実施するものです。

本大会閉会式にて受賞校の表彰式を行います。また受賞内容は、E S Dの実践教材として「受賞校実践集」にまとめ、年度末までに大会参加者の皆様に配布させていただく予定です。

なお、本年度のE S D大賞には、カシオ計算機株式会社様よりご協力いただいております。

第4回E S D大賞 受賞校

E S D大賞

福島県立安達高等学校

ユネスコスクール最優秀賞

愛知県東浦町立緒川小学校

小学校賞

多摩市立多摩第一小学校

中学校賞

新潟大学教育学部附属長岡校園

高等学校賞

立命館守山高等学校

審査委員特別賞

岡山県立和気閑谷高等学校



「ESDのさらなる発展を目指して－ 2014年ユネスコスクール世界大会を見据え」

